



いしみなと

石港遺跡の発掘調査を実施-大河津分水路にある古墳時代の集落-

石港遺跡は燕市渡部にある古墳時代の遺跡で、信濃川大河津分水路右岸の渡部橋上流に位置します。分水路開削工事の際には、良寛史跡として知られる「タぐれの岡」付近から古墳時代の提瓶と子持勾玉が出土したと伝わっています。

信濃川大河津分水路の改修事業に伴い、分水路下流の低水路掘削工事が計画され、遺跡の現状保存ができない箇所について、工事に先立って記録保存のための発掘調査を令和4年度から実施しています。

本年度の調査区では、狭い範囲に低地(川)と微高地が存在する、やや起伏に富む地形が確認されました。古墳時代前期の遺物を中心として、溝やピット、土坑等の遺構が微高地上に集中して見つかりました。ピットの中には重複するものが見られ、建物の建て替えが予想されるなど、長期間の土地利用が考えられます。

また2点の勾玉も出土しています。このうち子持勾玉は出土例が非常に少なく、石港遺跡近辺にある前方後方墳と推定される竹が花遺跡と合わせて、分水地域の古墳時代の暮らしを知るための貴重な資料といえます。



遺跡位置図



出土した古墳時代の土器



竪穴状建物



子持勾玉(左)と勾玉

古墳時代の成果に加え、大河津分水開削工事で使用されたと考えられる、道具やレールも出土しました。

レールは、エキスカベーターや機関車などの大型機械に用いられたと考えられ、頭幅(車輪との接地面)が約4cm、高さが約8cm、長さは約3mです。

大河津分水路工事の様子を感じられる貴重な資料です。



レールの出土状況

令和 4 年（2022）は、大正 11 年（1922）に信濃川大河津分水路に通水して 100 年の節目を迎えました。

燕市では、これまでの 100 年をふり返り、これからの 100 年につなぐ記念事業を様々に展開しました。

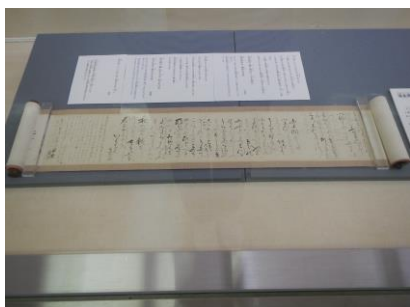
史料館事業(夏休み企画：大河津分水通水100周年記念展)

信濃川流域の6館(新潟県立歴史博物館・新潟市歴史博物館・長岡市立科学博物館・信濃川大河津史料館・燕市長善館史料館・燕市分水良寛史料館)で大河津分水通水100周年・関屋分水通水50周年をテーマにリレー展を行い、燕市では7月12日～8月28日の期間で、分水良寛史料館と長善館史料館で大河津分水を取り上げた企画展を行いました。多くの皆さんが関心を寄せていたという事もあり、市内外から沢山のご来場をいただきました。

〈分水良寛史料館〉「良寛の生きた時代と大河津分水へつなぐ良寛のころ」

大河津分水建設前の江戸後期における分水地域の環境（自然や暮らし、文化）とともに、良寛をはじめ、大河津分水建設の礎となった人々の働きや志について紹介しました。

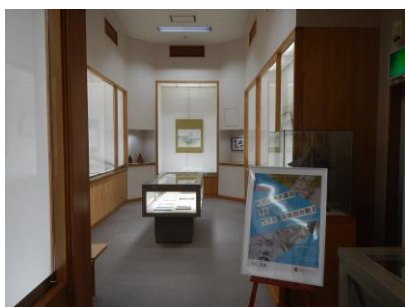
良寛と人々の交流を示す資料から、良寛が人々へ向けたまなざしに触れ、鈴木文臺の長善館創設や大河津分水建設へと継承された良寛の想いを表す資料の展示を行いました。



良寛史料館企画展

〈長善館史料館〉「大河津分水建設に情熱を注いだ門下生と長善館の教え」

中央政府に分水工事の請願を繰り返すなど、大河津分水建設に奔走した高橋竹之介と大竹貫一ら長善館の門下生の功績を紹介するとともに、社会に貢献する人物を多く輩出した学塾・長善館の教育について、当時の教材などから紹介する展示を行いました。



長善館史料館企画展

文化財説明板等修理-大河津分水関連史跡を周知-

広く大河津分水を周知する目的で、大河津分水に関連する史跡の標柱や説明板の整備を行いました。

対象とした史跡は横田破堤記念碑(燕市横田)、夕ぐれの岡(燕市中島)、客土の丘(燕市源八新田)、円上寺湯間歩跡(燕市渡部)です。

木製からより恒久的な金属製の説明板へと生まれ変わりました。



修理前(客土の丘)



修理後(客土の丘)

『郷土史燕-大河津分水を語り継ぐ-』を刊行

『郷土史燕』は燕市の歴史と郷土史研究の取り組みを市民により身近に感じていただく事を目的に発行していますが、令和4年度は大河津分水通水100周年を記念して『郷土史燕 第16号-大河津分水を語り継ぐ-』と題した特集記念号を発行しました。

大河津分水と人々の記憶を次の100年へ伝えるために、市内外の皆様から大河津分水工事や分水建設以前・以後の地域の景観や、人々の暮らしに関する身近な資料や思い出を広く募集し、『郷土史燕』に収録しました。

燕大学で通水100周年記念講演会を開催

燕市では平成25年から筑波大学と連携して長善館に関する調査・研究をしています。今年度は大河津分水通水100周年を記念して、「長善館の門下生たちは大河津分水にいかに関わったのか」と題した記念講演会を、燕大学の第2講として中央公民館で開催しました。

講演には筑波大学の田中友香理助教をお招きし、大河津分水建設の実現までの高橋竹之介ら長善館門下生の活躍と、長善館の精神との関係についてご講演いただきました。



田中助教



講演会の様子

燕市の文化財紹介

●登録有形文化財〔土木構造物(治水)〕 おおこうづぶんすいらいせき 「大河津分水洗堰」

登録年月日：平成14年(2002年2月14日)
所在地：新潟県燕市大川津字井戸下地先
建築年代：大正11年(1922)

大河津分水洗堰は信濃川の河口から約60km上流の信濃川本川と大河津分水との分岐地点に築かれた堰で、横田切れの被害を受けて明治42年(1909)に始動した国直轄の信濃川改修工事のひとつとして、大河津分水通水の年に竣工しました。堰柱26基が連なる延長約146mの大規模なRC造(鉄筋コンクリート造)構造物で、日本で最初の本格的なRC造堰です。信濃川本川への流量を調節し、越後平野への水害を防止する機能を持っています。

平成12年(2000)には隣接する上流部に新洗堰ができ、約80年に渡って活躍した洗堰は、現在公園として整備され、治水の歴史とともに信濃川の自然を感じられる場となっています。



洗堰



洗堰全景

文化財所有者・管理者の皆様へ

大切な燕の宝である文化財を守り伝えていくために、文化財所有者・管理者の皆様には日頃からその保存管理に努めていただき、ありがとうございます。文化財について何らかの行為をするときなどは、手続きが必要な場合があります。

文化財に何かあるときには、事前に教育委員会(社会教育課)へご相談ください。
例えば…●代が代わり、所有者が変更した。

●文化財が傷んでしまっているので、修理したい。

→補助金制度があります。計画の早い段階でご相談ください。

●博物館などから借用したいと依頼がきた。

●地震や大雨などにより文化財に被害が出た。

・・・など

☆文化財に関するご相談は、社会教育課文化振興係(電話：0256-63-7002)まで